

対話でつなぐ授業 ～自己肯定感を高めて～

岩瀬 竜弥



指導員訪問① 2年 算数科

「図をつかって考えよう(1)」 後藤 元輔 教諭

今年度、教師主導の授業からの脱却をめざします。今回の「逆思考の問題」は、初めての考え方であり、壁にぶつかる場面です。全ての子供が「テープ図」を土台に見通しをもって取り組み、「9人来たので・・・」から、自分たちの力でひき算で処理できる授業を大切にします。

また、対話を生み出す「立ち止まり」「ゆさぶり」をしかける支援の研究・協議に今年1年こだわります。問題・式・テープ図を関係づけて説明する中で、「テープ図って便利」「テープ図は説明が簡単」と本質に迫ります。


後藤教諭は、小4で新任教師との出会いが運命を決めました。子供目線で面白く、楽しい授業。鬼ごっこやドッジボールも手を抜きません。本気でぶつかる教師の姿にあこがれを抱き始めました。決め手は大学時代の「かぜはうつるが、元気もうつる」の教え。今日も笑顔を絶やさず、授業も休み時間も楽

しく取り組む教育の原点になっています。

さて、本時では、まず問題文から、分かること、求めたいことをはっきりさせて、「テープ図」を教師の指示で全員に確実にノートに書かせました。ただ、私なら書く前に動作化によって、①3つの関係の確認、②求めるべく「はじめの数」を確認、③ペアや全体で理解できているか確認、をします。クラス対話では、C2、C3「 $21 + 9 = 30$ 」が主流に。T6●で立ち止まった後に、何とC6「9人来ていない時の・・・」と前で説明しました。**時間を巻き戻した視点**=ひき算です。バスの子供の動きを指していました。学年協議でも、C27とともに「テープ図に戻るチャンス」と話題になりました。

教師主導からの脱却には、**子供の発言を捉える力も必要**です。最後に「たし算だと思ったけど、途中でひき算になると気付いた」と振り返った子も。どうして？聞きたくなりました。

1 子どもがあつまっていました。9人来たので、30人になりました。はじめは 何人 いましたか。

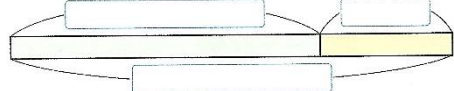


はじめの数と来た9人をたすと、ぜんぶで30人になるね。

図にかいてみると……

めあて 図にかいて、はじめの数のともめ方を考えよう。

ね 図にかいてみましょう。



<授業記録より一部抜粋、編集>

- C1: $30 - 9 = 21$
 C2: ちがうよ! (つぶやき多数)
 C3: $21 + 9 = 30$ 答え 30人
 T4: C3 の考えどう? もう1回問題見て。
 9人来たので、30人になりました。これって (21 を指して) どうやってわかった?
 C5: 子供が・・・(問題文を)・・・ $21 + 9$ 。
 T6: ●**21**ってどこから出てきた?
 C7: 9人来ていない時のはじめの数。(バスの絵を指して)「子供が集まっていた」が、来てない時の数を出したら21人。
 T8: 集まってない時、どこからどこまで?
 C9: 1番最初。中に乗ってる子がいて、9人がたってる時。
 T10: バスに乗ってる時と言うことは、最初にいた時。今日は何が知りたかった? 見通しではひき算。ひき算でやった人?
 C11: (多くの子が挙手)
 -<略>-
 T25: テープ図、増やした? 減らした?
 C26: 増やした! (つぶやき多数)
 C27: 初めの数は21人。C7と同じで、**来てない9人が来て、30人になった。**

